

令和5年度第2回大野城市民読書活動推進委員会 会議録

日 時	令和5年10月6日（金）14：00～15：40
場 所	市役所新館4階426会議室
出席者	部会員 萩尾智子会長、森部敦子副会長、河井律子委員、前園敦子委員 久家幸雄委員、橋本洋子委員、川口佳代子委員、片山さとみ委員 佐野裕委員、樋口真実子委員、井上和俊委員、阿部さやか委員 只隈克門委員、山村昭子委員、山内友香委員 事務局 コミュニティ文化課 佐藤課長、中川芸術文化担当係長、武内、森 教育振興課 大淵共育推進担当係長、簗原

内 容

1 開 会

（1）会長あいさつ

萩尾会長	10月になって少し涼しくなり、小学校では“読書の秋”ということで、各学校で色々な取組を行う時期となった。小学生はそういうイベントがあると、「図書館に行こう」「本を借りよう」と思ってくれるので、取組の効果が出やすいと感じる。 市民読書活動推進計画は、様々な対象者を対象とした取組を行うとしており、意義があると感じている。今回は、事務局より施策進捗状況について報告がある。より良い取組となるよう、たくさんの意見を挙げてもらおうようお願いしたい。
------	---

（2）本日の流れ

事務局より、本日の流れ、及び留意事項等について説明を行う。

- ・「施策進捗状況シート」に沿って12の施策における主な取組ごとの「達成状況」の確認を行い、特に検討が必要な事項等がないか意見をいただく。
- ・令和4年度の実施状況は「子ども読書活動推進計画」のもとで取り組まれてきた事業であり、それらを新計画に当てはめて評価するため、評価できない取組がある。
- ・同じく、評価指標も令和4年度の目標値が新計画に定められていないため、参考として令和5年度の目標値を記載している。
- ・目標値は、策定時点で、コロナの影響を考慮して設定したため、すでに令和5年度の目標値を超えている場合がある。計画上の数値のため現時点での見直しは行わず、必要に応じて中間年度に見直しを行う。

2 議 題

令和4年度の施策進捗状況に対する評価及び検証

事務局より各施策進捗状況シートに沿って報告し、委員より意見をいただいた。

基本目標1 あらゆる世代の読書の推進

(1) 乳幼児

① 絵本の紹介と保護者への啓発

② 読み聞かせの推進

③ 絵本の貸出の実施

→主な取組①～③に対する意見等はなし。今後の方針等も記載されているとおりに継続して取り組んでほしい。

(2) 小・中学生

① 本の紹介

→主な取組①に対する意見等はなし。

② 読み聞かせ等の推進

井上委員	中学生も本は好きだが、なかなか時間が取れない現状がある。 大利中学校では、学期に1度はブックトークを行っているほか、朝の10分間を読書時間としているが、不読者を減らすのに、それで満足かというところ少し難しいところがある。 そのほか、読書活動の啓発として、学校司書と協力しながら、図書委員会などでの呼びかけやイベントの実施等、本に親しんでもらう機会を増やすよう取り組んでいる。 やはり、時間との兼ね合いに難しさを感じている。
萩尾会長	ブックトークを実施するのは、なかなか難しい。ブックトークを広げるために、学校司書から教えてほしいという要望があれば、教えてもらうことは可能か。
事務局	図書館では、読書ボランティアの要望に応じてブックトーク講座を行ったこともある。要望が多いようであれば、検討が必要。
萩尾会長	ブックスタートを見て、子どもの本に対する意識が変わったと感じたことがあった。ぜひ、市内でも広げていってほしい。
前園委員	ブックトークも1つの方法だが、すべての子どもたちに本に出会わせる方法としては読み聞かせも重要。 学校によって、読み聞かせのやり方や時間が全然違う。10分のところもあれば15分のところもあるし、全然ないところもある。 すべての子どもたちに本を届けるためには、学校での朝読等を大事にしていきたい。校長先生の考えはいかがか。
萩尾会長	学校では、コロナの影響で、読み聞かせをストップしていた時期があったが、少しずつパーテーションを使ったり、ICTを用いたり、色々試して読み聞かせを行ってきた。ただ、やはり一番良いのは、子どもたちの目の前に座って、近くで見ってもらうこと。 大野北小学校では、2学期から読書ボランティアの方に来てもらって読み聞かせを計画的に再開した。まだ月1～2回ではある

	が、戻ってきたな、いいなと感じる。 他の学校の状況は把握していないが、おそらく市から調査してもらえたら再開の状況等も把握できると思う。
--	---

③ 読書時間の確保

④ 読書活動の促進

⑤ 読書目標の設定

→主な取組③～⑤に対する意見等はなし。

⑥ 調べ学習の促進

山村委員	今は学校でもタブレット学習がメインになってきていると思うが、本で調べることも推進されているのか。
萩尾会長	確かに小学校でもタブレットが導入されて、インターネットで調べることも多い。大人の場合だと、検索して必要なところを絞り込むことができるが、多くの子どもは難しく、目的と違うところに入り込んだりするため、小学校では本での調べ学習が有効だと感じている。
井上委員	中学校でも検索にタブレットを使用しているが、例えば SDGs を調べる時に、その関連本を図書館から借りて、数十冊単位で並べ、それらを実際に比較したり、関連を探したりという作業は実物の方が長けている。子どもたちは検索ワードがイメージできない子もいるし、どこから情報を引用するかという知識も大人に比べるとまだまだ。ただ、関連本がたくさんあり、これだけ関連情報があるということを実物で感じられる良さが本にはある。インターネットと本と両方使える必要があり、価値があると思う。
河井委員	図書はきちんと校正されて出版されているもの。そういう正しい知識を見ることで、インターネットで検索した情報が正しいか、信用できるのかを判断する力が養われる。むやみにインターネットだけで調べるのではなく、きちんとしたものを実際に目で見て、使いこなせるようになってからインターネットで検索してほしい。 本での調べ学習は、誤った情報を鵜呑みにすることなく、情報を判断する力を養うための手法でもあるため、端折らずにきちんと対応してほしい。
萩尾会長	おっしゃるとおり。

⑦ 保護者への啓発

萩尾会長	どの学校も図書館だよりやホームページも充実しており、色々な方に見ていただいていると感じている。
------	---

(3) 高校生以上の学生

① 本の紹介

→主な取組①に対する意見等はなし。

② 読書活動の促進

只隈委員	本校での活動状況を報告すると、朝読書を 10 分間行っているほか、クラスごとの貸出冊数や個人名は伏せて貸出冊数が多い生徒の状況をお知らせしている。また、何を読んだらいいのか分からない生徒のために、学校司書や図書委員が本を選んで各クラスに置いて興味を持ってもらう等の取組を行っている。 新校舎になって図書館自体はとてもきれいになったが、利用者が増えていないため、今後はインスタグラム等の SNS を活用して図書館情報を発信したいと考えている。
------	---

③ 調べ学習の促進

→主な取組③に対する意見等はなし。

(4) 社会人

① 読書活動の促進

山村委員	図書館に行くだけでなく地域で借りることも考えた方がよい。そのために地域貸出文庫の充実が必要。ただ、地域貸出文庫に関わるボランティアというか活動を担う人がいない。そもそも地域貸出文庫は地域によって全然違う。移動図書館も運行しているが、地域貸出文庫で簡単に借りられるようにすることが重要と思う。
前園委員	色々な読書に関する情報が入ってくるが、最近は“大人のための読み聞かせ”が注目されているようだ。お店でも年齢の高い人が自分で本を読むと目も疲れるし…という声を聞く。「絵本読みましょうか？」というのととても喜ばれる。自分で読むだけではなく、“大人のための読み聞かせ会”を企画しても良いのでは。
事務局	昨年度、牛頸のシニアクラブから相談を受けて、高齢者に対する読み聞かせをしてもらえる人を紹介してほしいとのことだった。牛頸では地元の歴史等をまとめた紙芝居があつて、牛頸文庫の方に繋ぎ、シニアクラブの定例会のなかで読み聞かせしてもらった。私も見学に伺ったところ、会話も弾み、とても盛り上がっていた。子どもだけでなく大人に対する読み聞かせの可能性を感じたところだった。
萩尾会長	私たちの世代も、老眼で本を読みにくいなど耳にすることがある。今後、社会人にも読み聞かせの対象を広げていただけたら良いかもしれない。
川口委員	図書館には、週末、子ども連れのお父さんやお母さんが多く来館

	すると思うが、子どもだけの本を借りるのか。それとも大人向けの本も借りるのか。
森部副会長	きっかけは子どもの絵本だが、段々、子どもが自分で選ぶようになると、お父さんもビジネス関係の本などを見に行く姿が見られる。最近は、週末の来館はお父さんが多い。子どもの絵本をきっかけに、お父さん自体の読書に繋がりたいと思う。

② 生涯学習の促進

→主な取組②に対する意見等はなし。

(5) 高齢者

① 読書活動の促進

萩尾会長	(4) 社会人と共通するところがある。高齢者向けの読み聞かせなども広げていただけたら。
------	---

② 生涯学習の促進

→主な取組②に対する意見等はなし。

(6) 全世代共通

① 読書活動の促進

② 本の紹介

③ 情報発信の強化

森部副会長	図書館では現在ホームページでの情報発信しか行えていない。色々な方に見てもらえるよう、SNS などでの情報発信等も考えていきたい。
萩尾会長	Instagramなどは映像やコメントがついていてわかりやすい。また#(ハッシュタグ)をつけることで関連した情報がどんどん出てくる。
只隈委員	高校生ではLINEよりもInstagramを使っている子が多い。あとはTikTokも多い。そういった手段を取り入れると、若い世代に情報が届きやすいかもしれない。
萩尾先生	ぜひ参考にしてもらいたい。

基本目標2 読書に親しむ環境づくり

(1) 身近な読書活動の場の充実

① 図書館の充実

山内委員	小さい子どもがいたり、大きい声が出たり読み聞かせしたり、年配の方等への影響を考えると、図書館に行くことがはばかられ
------	---

	た。また、本を破るのではないか、ぐちゃぐちゃにするのではないかとひやひやしている。図書館で、キッズタイム事業のような取組をしていただけると、心配も和らぐと思う。
萩尾会長	良い取り組みになると思う。

② 学校図書室の充実

河井先生	学校図書室は何時から何時まで開いているのか。
萩尾会長	小学校は1時間目から開けている。ただ、学校司書の勤務時間が学校ごとに決まっているので、学校司書が対応する時間と担任が対応する時間は学校で差がある。中休みと昼休みは利用可能。
井上委員	中学校も学校司書が出勤してから16時過ぎまで開けている。昼休みも利用可能。そのほか、必要に応じて担任が利用できるようにしている。
只隈委員	筑紫中央高校では9～17時に開けている。昼休みのほか、放課後の利用も可能。自習スペースがあるため、学習利用も多い。

③ 地域貸出文庫の充実

久家委員	つつじヶ丘公民館では、文庫室はなく2階のホールに本を置いている。貸出担当はおらず、自由に借りてもらい、帰りにノートへ各自記入としている。返却が遅い時は、文庫担当者2人が声かけを行っている。文庫担当者は、以前の担当者は本好きで大人の本がメインだったが、今の担当者2人は若くて小さい子もいるため、絵本と大人向けの本が半々くらいになっている。本屋と相談して購入している。
川口委員	地域貸出文庫連絡協議会の会長をしている。地域貸出文庫は区（公民館）によってばらばらで、つつじヶ丘公民館（区）のように部屋がないところもあれば、立派な部屋を設けているところもある。文庫担当者の在り方も違う。正直、区長次第だと感じる。区長が協力的な場合はどんどん良くなっていき、1週間文庫室を開けようという話にもなってくるが、それはそれで事務員の方に負担がかかってくる場合も多い。本の管理や貸出はとても大変。事務員でもできる方とできない方がいる。 地域貸出文庫では、8月に親子読書会として工作と読み聞かせを実施している。日曜なのでお父さんが多い。読み聞かせをすると子どもは静かに聞いてくれる。そんなに難しいことはしていないが、とにかく地道にやっている。市から補助金をもらっているので継続できていると思う。関わっている人は楽しんでやっており、楽しんでやっている人は長く活動してくれる。
萩尾会長	大野城市の地域貸出文庫は珍しいと聞いた。

川口委員	所々で個人の文庫はあるようだが、このように各公民館に文庫があるのは珍しいと把握している。
前園委員	私も関わりたいと思うが、時間帯が難しくて参加できない。知らない人が多いのはもったいない。広報や公民館だよりも毎月載せてもらえれば良いのに。
阿部委員	区によっては載っている。ただ「読み聞かせをやります」と載せても、絵本に興味がある人しか来ない。別の事業と抱き合わせて例えば、子ども食堂で読み聞かせをしたり、七夕飾り作りで子どもが集まった時に宣伝をしたりなど、違うアプローチをしても良いかもしれない。 公民館だよりなどに載せてもらう場合には載せ方も大事。本当に地域貸出文庫が知られていないのは残念だと感じる。
萩尾会長	地域貸出文庫を広げるとなると、他事業との抱き合わせや、別の場所にお邪魔して宣伝するなど、ひと手間が必要かもしれない。

④ コミュニティセンターのコーナー充実

橋本委員	コミュニティセンターは、スポーツやサークルで利用する方が多く、あまり読書に力を入れてこなかった。そのため読書コーナーがどうしても古い本ばかりになり、新しい本を買う予算もないので、長年置いたままになっていた。 昨年度、新計画に合わせ、新しい本を増やしていこうという目標を設定することになったため、今年度から力を入れて、新しく本を増やす取組を始めた。1つ目は、まどかぴあ図書館のリサイクル図書の受入れ。2つ目は、クリーンみかささんのペットボトルキャップを集めて新しい絵本に交換してもらう取組に参加し、半年経ってやっと5冊交換してもらった。今まで新刊がなかったところに、初めて新しい魅力ある本が増えた。3つ目は、地域の皆さんに本の寄付募集の窓口への掲示。 すぐに新しい魅力あるコーナーに変わるというのは難しいが、少しずつ取組始めている。昨年度は、こういう取組をしていなかったもので仕方がないが、達成状況が「期待以下」は残念。 また、今年度から絵本のおはなし会も実施し始めた。今後も積極的に広げて、継続していきたい。
事務局	コミュニティセンターでは、本当に積極的に活動してくださっており、日頃から感謝している。今年度始めた取組は、今年度の実績として来年度挙がってくるので「期待以上」となると思う。
久家区長	公民館では、たくさん寄付本が集まってくるが、あまりスペースがなく、やむを得ず古紙回収へ出すこともある状況。そういう本

	も必要があれば、コミュニティセンターに提供可能である。
河井委員	気を付けていただきたいのが募集の仕方。「誰でもよいから本を持ってきて」と言うと、図書館でもそうだが、古い本ばかりがたくさん集まり大変なことになる。「こういう本が足りないから、持ってきてください」という風に少し特定して募集すると、お互い無駄な労力なく、必要な本を集めることができる。

⑤ 気軽に読書・調べ学習できる場の充実

⑥ 移動図書館の活用促進

⑦ 本を届けるサービスの実施

⑧ イベントの実施

⑨ 電子書籍サービスの導入・運用

→主な取組⑤～⑨に対する意見等はなし。

(2) 資料の充実と効率的な活用

① 資料の充実

② 団体貸出の促進

③ 図書の再活用

→主な取組①～③に対する意見等はなし。

(3) 読書バリアフリーの推進

① 館内設備の充実

② バリアフリー資料の充実

③ バリアフリーサービスの充実

④ 多文化サービスの充実

→主な取組①～④に対する意見等はなし。

基本目標3 読書ネットワークの充実

(1) 身近な読書活動の場の充実

① 相談窓口の充実

森部副会長	図書館には、しらべものカウンターと児童カウンターがあり、しらべものカウンターは職員が常駐できているが、児童カウンターは土日祝日と夏休みしか常駐できていない。ボランティアの方々の相談対応もゆっくり児童カウンターで伺いたいが、常駐できていないため難しい。人員不足で児童カウンターがうまく活用できていない状況であるため、できるだけ早く常駐できるよう整備していきたい。
萩尾会長	例えば一日のなかで15～17時だけ常駐するのも難しいのか。
森部課長	難しい状況。

② 時代に即した連携のあり方の検討

→主な取組①～②に対する意見等はなし。

(2) 読書活動を支える人の活動の活性化

① 図書館司書のスキルアップ

② 学校司書活動の充実

→主な取組①～②に対する意見等はなし。

③ 保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援

樋口委員	令和4年度は記載のとおり研修会に参加できない状況に多々あったが、オンラインでのeラーニングが発達してきて、オンライン参加は増えたという印象がある。令和5年度からは対面での研修にも以前通り参加できているので、来年度は達成状況も「期待どおり」になると思う。
------	--

④ 読書ボランティアの育成

阿部委員	図書館の入門講座は人気が高く、申込したくても定員になってしまうことが多い。また、全3回に参加できることが条件となっているため、1回でも予定が合わないとは申込みできない。もう少し柔軟に対応してもらえると、多くの方が参加すると思う。
森部副会長	入門講座は、現在、年1回しか実施していないため、問い合わせを受けることもあり、課題だと認識している。これまでは特に、コロナ対策として定員を制限していたので、今後は定員を増やして広く参加いただけるよう工夫していく。

⑤ 読書ボランティア人材の発掘

山村委員	読書ボランティアに限らず、色々なボランティアで若い人は仕事があり時間がないので、日中の活動が難しく、本当に悩んでいる。これまではボランティアで良かったかもしれないが、ボランティアに頼らず、お金をかけて人を集める方法も考えるべきかもしれない。
萩尾会長	旅費やお茶が出るなどボランティアにも色々ある。例えば、市の予算の問題にはなるが、少しの金額でも出るとなるとまた違うのかもしれない。
山内委員	大野城市総合福祉センター内にあるボランティアセンターでは、最近コロナが減って、少しずつ来所相談が増えている。インターネットでのボランティアエントリーシステムの活用を紹介している。今、定期的なボランティアは減っており、単発で1～2日だけのボランティアに参加する30～40代が増えている。

	インターネットで気軽に参加できるので、募集チラシを見て申込というよりは、エントリーシステムを使用する方が増えている。読書ボランティアも掲載可能。
片山委員	図書館ボランティアわくわくで活動しているが、コロナ禍では下火だった活動が、最近イベントが増えてきた。ボランティアの方も昔は“本や絵本が好き”という人が楽しんでやりたいということで集まっていたが、今は、やはり仕事でできない人が多い。わくわくも20名は在籍しているが、イベントにたくさん参加したいと思っても思うようにいけないという人も多い。イベントをするからには子どもたちに喜んでもらわないといけないし、スキルアップのための研修も必要だし、人も集めないといけない。色々な課題を持っている。
萩尾会長	悩みは尽きない。定年延長などもあり、60歳で退職してボランティア活動という訳にもいかない状況になってきた。確かに限られてくると感じる。達成状況は「期待以下」となっているが、ボランティアセンターのエントリーシステム等も活用しながら、達成状況が上がっていくとよい。

⑥ 読書ボランティア活動の活性化

⑦ 読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり

→主な取組⑥⑦に対する意見等はなし。

(3) 市民交流の創出

① 市民が参加できるイベント等の実施

→主な取組①に対する意見等はなし。

その他（全体を通して）

佐野委員	市民の読書を推進するために、色々な切り口で計画を策定し、取組ごとに達成状況を細かく確認するのは良いと思うが、市民の意識がどう深められたのか、数値化するのは難しいかもしれないが、確認していく必要がある。 また、市民にアピールしながら施策を推進していく必要がある。
------	---

川口委員	達成状況は「期待以上」「期待どおり」「期待以下」の言葉で書く必要があるのか。わかりにくいし、違和感がある。決まりがないのであれば、◎○△という記号にしてはどうか。
事務局	今回、様式は定められたものではないため、変更可能。今後は、市民にも広く公表するものとなるため、記号の方がわかりやすいと思う。修正したい。

3 その他

事務局より、以下の点について依頼を行う。

- ・今回挙げていただいた内容は、所管課を通じて各実施主体にフィードバックし、その結果を記載したものを、年明け頃、報告させていただく。そのうえで、市のホームページにて公表予定。

4 閉会

佐藤課長	本日はお忙しい中ありがとうございました。委員の皆さまにたくさんのご意見をいただき、大変有意義な委員会となりました。本日挙げられた意見を、所管課を通じて各実施主体へ届け、今後、本市の読書活動を促進していきたいと思っています。ありがとうございました。
------	---

以上